

2025年度 事業報告書

1 事業期間

2025年4月1日から2026年3月31日

2 事業の実施状況及び成果

別添資料の報告書・計画書の通り

3 社員総会の開催状況

2024年度 通常総会

(日時) 2025年5月31日 (土)

(場所) 特定非営利活動法人子どもデザイン教室

(社員総数) 14名

(表決者数) 13名 (賛成13名)

(内容) 第1号議案 2024年度 活動報告の件

審議の結果、賛成一致で可決承認

第2号議案 2024年度 決算報告の件

審議の結果、賛成一致で可決承認

第3号議案 2025年度 活動計画の件

審議の結果、賛成一致で可決承認

第4号議案 2025年度 予算計画の件

審議の結果、賛成一致で可決承認

4 理事会の開催状況

2025年度 理事会

(日時)	2025年7月12日	17時20分～18時20分	出席者数6名
	2025年9月13日	17時00分から18時30分	出席者数7名
	2025年11月8日	17時00分から18時30分	出席者数6名
	2026年1月10日	17時00分から18時00分	出席者数9名
	2026年3月14日	17時00分から18時40分	出席者数6名

子どもデザイン教室事業のご報告

6つの児童福祉施設と一般家庭の児童に 4つのプログラムを実施

2025年度は次の4つのプログラムを実施しました。低学年向けの「絵と工作レッスン」と児童福祉施設専用の「えとこうさくレッスン」は、自由工作などを通じて自己肯定感を高めるのが狙いでした。子どもが絵を描きながら自分の気持ちを伝える「おとなとこどものじかんワークショップ」は、子どもの意見表明力を育てるのが狙いでした。

高学年向けの「こどキャラレッスン」は、オリジナルのキャラクター商品を制作し、販売会「こどキャラショップ&カフェ」で自ら販売しました。他にも自薦の絵本をプレゼンする発表会「言葉で描く絵本の世界」もしました。こうした経験を通して自己肯定感を高め、意見表明力を育てるのが狙いでした。

2025年度の反省点は「おとなとこどものじかんワークショップ」が低調だったことです。その原因はおとなの技量が問われるハードルの高さでした。美術で子どもの意見表明を育てる画期的なカリキュラムと考えましたが、残念ながら2025年度で撤退します。しかし下記の通り、何気ない会話が子どもの支えになったり、ほとんどの子どもが自身の成長を実感できたりしたのはレッスンの成果です。

子どもたちの振り返りより

「（施設で）いろんなことがあったとき、
たかさんが『どうしたの？』と聞いてくれて
うれしかった」

「最初（レッスン）は普通だったけど、
どんどん面白くなって、最後はすごく面白くて、
来年もまたすごく楽しみ」

「商品1つ1つのクオリティーは高くできて、今までより成長できた。
いかにげんに作らないという（レッスンの）目標を達成できたし、
自分の目標の人前でも話せるようになってきていると思った。
成長をたくさんしたし、悩むこともあったけど楽しかった」

述べ94回・783人のレッスンで満足度95%、
児童福祉施設59人・一般家庭20人の
子どもを笑顔に

京都教室も母子生活支援施設で
年6回・約30名のレッスンを実施

「デザイン国語」の学会発表と啓発活動

伊藤嘉余子理事（大阪公立大学学長補佐）・井上翔一理事・藤井健志先生の3氏による「デザイン国語」。今年で8年目になる学会発表を日本子ども虐待防止学会北海道大会で実施しました。デザイン国語とは国語の機能を使って親と暮らせない子どものセルフアドボカシーを支援するユニークなカリキュラムです。

このほか伊藤嘉余子理事が兵庫県やモンゴルなどで、「5つのきく」「かきくけこうふくろん」と題した講演・研修を年11回実施し、述べ約730名の教職員はじめ、多くの方々に聴講頂きました。また代表理事の和田は東京武蔵大学で講演し、子どもデザイン教室の普及と啓発に努めました。



創作を通して自分を表現し、自己肯定感を高める「絵と工作レッスン」



いつも笑顔、児童福祉施設への出張「えとこうさくレッスン」



今年度で撤退する「おとなとこどものじかんワークショップ」



平均8,900円の売り上げ、販売会「こどキャラショップ&カフェ」



日本子ども虐待防止学会北海道大会で「デザイン国語」学会発表

子どもデザイン基金事業のご報告

113名様のご個人で寄付、24社様の法人で寄付、
さらに20名様のご継続で寄付

総額2,756,354円のご支援 *数字は延べ員数、正会員費を含む

2026年度は個人様で900,000円ものご寄付を頂くなど、総計133名の個人様、24社の法人様から総額2,756,354円のご寄付を頂きました。くわえて画材・お菓子など、30,000円相当のご寄贈品を頂きました。しかしボランティアスタッフのご尽力を頂きながらも、206,892円の赤字となりました。

大阪東ロータリークラブ様と協同で
キッズプラザ大阪でのクリスマス会に
児童福祉施設の子どもたちを招待

12月、児童福祉施設の子どもたち・施設職員さん・大阪東ロータリークラブ様など、総勢72人でキッズプラザ大阪でクリスマス会をしました。キッズプラザ大阪で遊び、マクドナルドとミスタードーナツを頂き、サンタさんの手品、たくさんのお菓子、ゲーム、プレゼント交換と大盛り上がりでした。

福祉型キャラクタービジネス「こどキャラ」

子どもデザイン教室の子どもたちが描いたキャラクターを法人様や個人様に販売し、その収益金を子どもデザイン教室の運営資金にするユニークな福祉型キャラクタービジネス「こどキャラ」。今年度は日光コーポレーション様のキャラクターマークやお名刺など、138,050円の収益金がありました。



キッズプラザ大阪でクリスマス会



献身的にご支援くださるボランティアスタッフ



個人様のお名刺

キャラクターマーク

親と暮らせない子どもと共作したキャラクターを広告宣伝にお使いください。

児童福祉×
キャラクタービジネス

こどキャラ®



子どもデザイン教室は親と暮らせない子どもを支援をするNPO法人です。その子どもたちと共作したイラストを広告宣伝にお使いください。その使用料でレッスンの画材などを購入します。皆様の広告宣伝が親と暮らせない子どもを笑顔にします。

お問い合わせは
06-6698-4351

- ご依頼のキャラクターを制作する場合
 - ①独占使用 **120,000円** 税別
 - ②共同使用 **60,000円** 税別
- 既存のキャラクターを使用される場合
 - ③共同使用 **30,000円** 税別

天真爛漫ではられない思春期たち

2025年春4月になり、新しい子どもを迎え、子どもが6人になりました。ファミリーホームは里親の延長ですから、皆と一緒に暮らすことを大切にしています。しかし問題は、様々な家庭環境で育ってきた子どもが一緒に暮らすため、自ずとルールでグリップしないといけないことです。

子どもは成長と共に自我を形成し、ルールからはみ出して、「自由にしたい」「ルールばっかり」といい、あぐり行く当てもないのに「早くホームを出たい」といいます。するとあっという間に子どもとの関係が崩壊しました。それから毎週ミーティングを開き、関係改善を図りましたが、元に戻る気がしませんでした。話し合いには応じず、整合性のないことをいったり、やがて私をなじりだしたりで、段々しんどくなってきました。

ただこうした関係崩壊は子どもとのあり方を再定義するよい機会になりました。これまでの私の態度を振り返り、頭ごなしだったことを反省しました。そして子どもとちょっと距離をおくことで、子どもとの関係が悪循環に陥らないようにしました。最後には「こんな日もあったね」といつか子どもと笑いあえる日がくることを願うしかありませんでした。

ようやく底打ちの気配

これまで私はファミリーホームを運営するにあたり、「この子たちの父親だ!」と気張って休まず頑張ってきました。しかしあまり前のめりになると迷惑に思う子もいるし、自分の精神的にもよくないと思い始めました。児童養護への思いは変わりませんが、この頃から冷静に距離を置くことも大切だと考え始めました。

そうするうちに、関係が崩れていた子どもとある日、「マクドいこか?」と長居公園でマクドナルドを頻張りしました。この子がホームに来た当初、関係が悪かった頃、二人で初めて行ったのもマクドナルドでした。高校のことや、将来のことを久しぶりに話をしました。初夏の風が心地よく、4月から続いた焦燥感はいよいよ底打ちの気配を感じました。

子どもの家庭復帰

7月末、大学生の子がめでたく家庭復帰しました。初めての珍しいケースです。特段、私たちが努力をした訳ではありませんが、結果的にホームに委託されたからこそなした家庭復帰でした。このようにその子の人生の好転に私たちがお役に立てたのであれば、ファミリーホームの意義があると思いました。

旅は仲良しになるためのスパイス

2025年の夏は子ども同士の関係性が悪く、長崎・神戸・青森と別々に3回旅行をしました。日常生活では子どもに嫌なことをいわないといけなかったり、仏頂面になったりですが、旅先ではそんな必要もなく、私も子どももずっとふざけて、笑っていました。こんな時間を日常に挟む大切さを再認識しました。旅は仲良しになるためのスパイスです。

言葉だけではない子どもの意見表明

見えていたようでまったく見えていないことがあります。12月末、恒例の北海道の旅行でのことです。ホテルの朝食バイキングは旅の楽しみです。私は決まって洋食で、ファミリーホームもホテル並みの朝ご飯にしようと、朝の洋食を毎日の使命としてきました。

ところが。ふと子どもたちの配膳を見ると、みんな和食を食べています。そこで「和食、好きなん?」と聞くと、みんな「そうやで〜」といいます。驚きでした。「魚は嫌い」とか、「揚げ物大好き」とかいうので、すっかり子どもは洋食好きと決め込んでいました。これは「何にも見えていないんだな〜」と反省しました。きっと子どもたちなりに遠慮したり、いいせなかったりしていたのでしょう。こうして思うと子どもの意見表明とは、「何かあったらいつて」や「何でも聴いていますよ」ではないと思いました。

つまり子どもの意見表明とは、言語化されていない子どもの表情や行動を見て、訊いて、「あなたのいたいこと、したいことは、もしかして○○なんじゃない?」と具体的にしていくことだと考えました。2025年度を振り返ると、新しいことは何一つできませんでした。しかし「理想の里親とは?」を深く考えた1年でした。



7月、子どもの巣立ち



7・8月、関西万博・神戸旅行、長崎旅行、青森旅行



10月、名古屋旅行



12月、北海道旅行



3月、東京旅行